

令和2年度 伊達市立伊達西小学校 北の子学びプラン

令和2年4月8日
伊達西小学校教務部

伊達西小学校では、確かな学力を身に付けた子どもの育成を目指して、平成22年度から「北の子学びプラン」に取り組んできました。

「北の子学びプラン」とは、校歌の三番の歌詞「北の子ぼくら世を創る」からヒントを得て、子ども達の学びを三つの側面から見つめ直し、家庭、学校、子どものそれぞれが協力しあって、総合的に学力を向上させていこうという取組です。

三つの側面とは、①学習習慣・学習規律 ②授業改善 ③家庭学習 の三つです。

プラン① **き**がまえ、身がまえ、物がまえしっかりと～学習習慣・学習規律の徹底

プラン② **たの**しく考え、学び合い～授業(づくり)改善

プラン③ **こ**つこつ毎日、家でも学習・読書～家庭学習の定着

〈全体構造図〉

学級経営の充実

・落ち着いたある生活集団づくり

・学び合い高め合う学習集団づくり

き

学習習慣（学習規律）

- ・学習の準備・時間を守る
- ・聞き方、話し方、書き方
- ・学習用具

たの

授業(づくり)改善

- ・教材研究の充実
- ・学習展開と学び方の定着
- ・ノート指導

こ

家庭学習の定着

- ・学習の仕方
- ・学習の内容
- ・学習時間のめやす

- ・早寝早起き
- ・朝食をとる習慣
- ・学習、遊び、手伝い、
読書などバランスのよい生活サイクル
- ・読書の習慣化
- ・健康、体力の増進

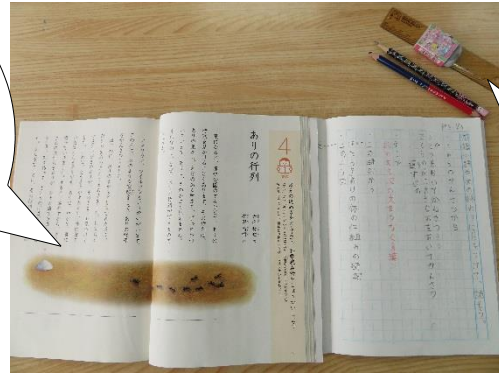
家庭 《望ましい生活習慣の定着》

プラン①

○気がまえ(学習準備について)

- ①登校後 ○ランドセルや雨具などの始末、課題の提出、名札つけ、水飲み、トイレを済ませます。
○8時5分には、着席をしています。(8時5分から、朝学習が始まります。)
- ②朝学習 ○朝学習は、担任が準備した課題に取り組みます。4年生以上は、主にチャレンジテストに取り組みます。
- ③学習の準備

○ノートや教科書は、見やすい位置に置きましよう。
○曲がらないように置くと見やすくなります。



○鉛筆、赤青鉛筆、消しゴム、定規が転がらないように置きましよう。
○筆入れは、机の中に入れてましよう。

学習が終わったら

- 教科書、ノートは、机の中に入れます。
- 消しゴムのかすは、自分で集めてゴミ箱に入れましよう。
- 次の時間の用意をしてから、休みまます。

プラン①

○身がまえ～基本な学習のしつけ～

聞き方

- 話す人に体を向けて、話す人を見て姿勢良く聞きます。
- うなずきながら聞いたり、大事なことをメモしたりしながら聞きます。
- 聞き取れない時は、「もう一度言って下さい。」と言います。

話し方

- 「はい。」と言って手を挙げまます。
- 聞いている人全体に聞こえるような声で発表まます。
- 「～です。」「～だと思いまます。」と語尾まではっきりと話まます。

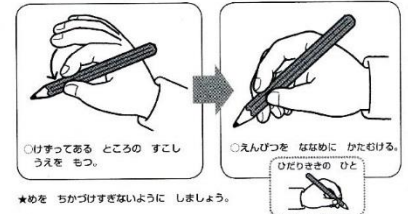
書き方

- 鉛筆を正しく持って書きまましよう。
- 定規を使うところは、しっかり使いまましよう。
- 学年が上がるにつれて、見やすくなるように工夫して書くことままあります。



えんぴつの持ち方

- ①おやゆびとひとさしゆびでわをつくって、えんぴつをもつ。
- ②なかゆびをまくらにして、えんぴつにつける。



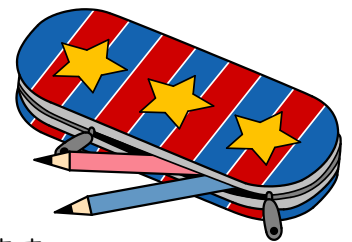
プラン①

○物がまえ(学習用具について)～学習に集中し効果的に学ぶために～

筆入れには次の物だけを入れるよう指導してまます。

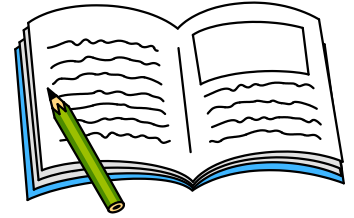
- ①鉛筆5～6本程度 (1・2年B～2B) (3年以上B～HB)
 - ・三角、六角、らせん軸など、持ちやすく、書きやすい物が望ましいです。
 - ・飾りつき、バトル鉛筆などは集中を妨げることがまます。
- ②消しゴム1個 よく消え、無臭で、四角い物が望ましいです。
- ③赤青色鉛筆
 - ・赤青一体になっているものでも、2本用意して下さっても結構です。
 - ・高学年はボールペンを使用する場合があります。担任から指示がまます。
- ④黒の記名用サインペン(油性)
- ⑤15cm程度の定規
 - ・目盛り部分が透明で読みやすい物がよいです。

※全ての学習用具に名前をつけるよう願いまます。



プラン②

ノートづくり～考える力を育てるノート指導～



書くことによって自分の考えをはっきりさせたり、まとめたりすることができます。また、書きながら考えが広がったり深まったりすることもあります。「考える力」をより確かなものにするために書く活動はとても大切です。

各教科の学習では、ノートに自分の考えや友達の考え、学習してわかったことなどを書くようにしています。そうすることによってノートに学習したことが記録され、学習したことを積み重ねていくことができます。

プラン③

「家庭学習のすすめ」

1 家庭学習の5つの効果

家庭学習はなぜ必要なのでしょう？それは、家庭学習には次のような5つの教育的効果が期待できるからです。



① 習ったことを忘れない

学校で学習したことを家庭で復習することにより、習熟・定着を図ることができます。特に漢字や計算などは、学校だけの学習ではすぐ忘れてしまいなかなか習熟・定着ができません。学校で習ったことを、家庭でも繰り返し毎日練習することが何よりも大切です。

② 脳が発達する

読み、書き、計算などの反復練習を続けることにより脳が活性化されると言われています。最近では、脳の老化を防ぐために、子どもだけでなく大人でも声を出して読んだり、計算問題をしたりすることがちょっとしたブームにさえなっています。脳は筋肉と同じで、鍛えれば鍛えるほど発達するとも言われます。小学生のうちからどしどし脳を鍛えさせましょう。

③ 学ぶ習慣と喜びが身に付く

毎日欠かさず家庭学習を続けることにより、自ら進んで学ぶ習慣と学ぶ楽しさや喜びを身に付けるようになります。毎日続けることにより、勉強することが面倒ではなく、やがて、ごくあたりまえの基本的な生活習慣になります。したがって、低学年のうちから毎日欠かさず（1日も休まず）家庭学習をすることが大切です。

また、習慣化により、親や周りの人からの賞賛を受け、自分に自信を付けていくことができます。

④ テレビやゲームと上手につき合える子になる

家庭学習の最大の敵はテレビやゲームの誘惑です。テレビやゲームに毎日2時間以上も時間を費やしている子は、一般に本を読むのが苦手で、勉強が嫌いな子が多いと言われています。当然、学力は伸びません。また、人をばかにしたり、暴力をふるったり、弱い者をいじめたり、人を殺したりする画像は、子ども達に善悪についての価値判断を狂わせてしまう危険性があると言われています。

テレビなどの誘惑に打ち勝つことにより、がまん強さ、根気、集中力も養うことができます。テレビやゲームと上手につき合っていくためには、本人はもとより家族みんなの協力が不可欠であることは言うまでもありません。月に1回の「ノーテレビ・ノーゲームデー」には、家族全員で積極的に取り組みましょう。

⑤ 家族のふれあいにより脳が活性化する

子どもが本を読んでいる時そばで聞いてあげる、子どもが勉強が分からない時教えたり調べたりしてあげる、など家庭学習をしている子どもに親が関わることにより、家族のふれあい（コミュニケーション）ができます。特に低学年の子どもには親が本を読んであげたり、一緒に読書をしたりする（親子読書）のもいいことです。家族のふれあいの機会が増えることにより、子どもが心身ともに健康に育ち、自信とやる気を深め、しいては学力も伸びていきます。

近年の学習に関する研究によれば、家族（親）が近くで自分の勉強をしているところを見てくれるだけで、自己肯定感が深まり、脳が活性化し、よく内容を理解できるとの報告があります。

2 保護者をお願いしたい5つのこと

前述のとおり、家庭学習は5つの効果が期待できます。子どものやる気を出すようなはたらきかけをお願いします。

① 家庭学習は、毎日させましょう

学校がある日はもちろん、学校が休みの日にも続けさせましょう。それは、家庭学習はとにかく毎日続けることが大切だからです。しかしながら、休日にスポーツをしたり遠出をしたりして疲れて家庭学習どころではない場合もあるかと思えます。その場合は、スポーツや遠出をする前に短時間でも、家庭学習を済ませておくのも一つの方法でしょう。また、休日に疲れのないような過ごし方を家族で話し合い、実行するのもいいかと思えます。

② 家庭学習は、短時間で集中してさせましょう

学力を伸ばすためには、ふつう、1時間も2時間も長く勉強させたらいいと思いがちです。しかし、1日や2日ぐらいなら、なんとか勉強に集中しますが、ずっと毎日長時間やらせていると、知らず知らずのうちに勉強嫌いな子どもになっていきます。短時間で集中して勉強することが長続きのこつです。だらだら長くやっても、体も頭も疲れるだけです。

<時間の目安> 学年×10分【基本】+10分【努力目標】

③ 子どもが家庭学習をしている時は、テレビを消しましょう

テレビを見ながらの勉強はもちろんいけません。テレビの音が聞こえるような環境では子どもは集中できません。もし、テレビの音が聞こえるようでしたら、テレビを消しましょう。静かに学習できる環境を作ってあげるのは親の役目です。



④ 子どものがんばりを認め、ほめたり励ましたりしてあげましょう

ここが一番大切です。親や教師が、子どものがんばりを認め、ほめたり励ましたりすることにより、自信が付き、進んで学習しようという意欲を高めることができます。反対に、親が口うるさく強制したり、間違いをきつくとがめたりすると逆効果になります。

⑤ 生活のリズムを整えさせましょう

毎日決まった時間に家庭学習を行うためには、家庭での生活のリズムを整えることが大切です。「生活のリズムを整えることが学力向上につながる」ことは昨年度も学校だよりなどでお伝えしてきました。「早寝、早起き、朝ご飯」は、生活リズムの大原則です。学校でも家庭でも生き生き元気に学習に取り組むために、ぜひ早く寝せ、早く起こし、朝ご飯をしっかり取らせましょう。就寝時間は、それぞれの家庭の事情があるかもしれませんが、7時間以上の睡眠時間はぜひ確保したいものです。